

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位 数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
症候学	必修	1	4	1		医学教育センター：秋好・山本 各臨床講座 教員

【科目名の英文】 Symptomatology

【授業の概要・到達目標】

授業の概要：主な症候・病態の原因、分類、診断と治療の概要を各分野統合して学ぶことにより、医師として必須となる診療の基本を修得する。

到達目標：発熱、全身倦怠感、食思（欲）不振、体重減少・増加、ショック、意識障害・失神、けいれん、めまい、浮腫、皮疹・粘膜疹、咳・痰・血痰、呼吸困難、胸痛、動悸、胸水、嚥下困難・障害、腹痛、悪心・嘔吐、吐血・下血、便秘・下痢、黄疸、出血傾向、リンパ節腫脹、尿量・排尿の異常、血尿・蛋白尿、月経異常、不安・抑うつ、頭痛、運動麻痺・筋力低下、腰背部痛、関節痛・関節腫脹、聴力障害・難聴・耳鳴り、視力障害の33症候について以下の目標に到達する。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. その症候の原因と病態生理を説明できる。	○		○	○		○
2. その症候をきたす疾患(群)を列挙し、診断の要点を説明できる。	○		○	○		○
3. その症候がある患者の治療の要点を説明し、専門的治療が必要な状態を概説できる。	○		○	○		○
4.						

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	症候学①	全身倦怠感	総合診療・吉岩	講義
2	症候学②	運動麻痺・筋力低下	神経内科・木村	講義
3	症候学③	体重減少・体重増加	内分泌糖尿病内科・正木	講義
4	症候学④	意識障害・失神	神経内科・増田	講義
5	症候学⑤	吐血・下血	消化器内科・福田	講義
6	症候学⑥	関節痛・関節腫脹	整形外科・糸永	講義
7	症候学⑦	めまい	総合診療・吉村	講義
8	症候学⑧	高次機能・感覚	神経内科・軸丸	講義
9	症候学⑨	皮疹・粘膜疹	皮膚科・後藤	講義
10	症候学⑩	呼吸困難・喘鳴	呼吸器内科・小宮	講義
11	症候学⑪	腰背部痛	整形外科・宮崎	講義
12	症候学⑫	発熱	呼吸器内科・小宮	講義
13	症候学⑬	腹痛	消化器内科・遠藤	講義
14	症候学⑭	出血傾向	腫瘍・血液内科・河野	講義
15	症候学⑮	けいれん	小児科・前田、平原	講義
16	症候学⑯	黄疸	消化器外科・増田	講義
17	症候学⑰	動悸・心悸亢進	循環器内科・高橋	講義
18	症候学⑱	聴力障害・難聴・耳鳴り	耳鼻咽喉科・門脇	講義
19	症候学⑲	月経異常	産婦人科・河野	講義
20	症候学⑳	リンパ節腫脹	腫瘍・血液内科・高野	講義
21	症候学㉑	排尿障害	泌尿器科・澁谷	講義
22	症候学㉒	蛋白尿・血尿	腎臓内科・工藤	講義
23	症候学㉓	睡眠障害・不安・抑鬱	精神科・平川	講義
24	症候学㉔	嚥下困難・嚥下障害	耳鼻咽喉科・立山	講義
25	症候学㉕	視力障害	眼科・木許	講義
26	症候学㉖	ショック	救急医学・安部	講義
27	症候学㉗	浮腫	腎臓内科・福田	講義
28	症候学㉘	食欲不振・悪心・嘔吐	消化器内科・兒玉	講義
29	症候学㉙	胸水	総合診療・宮崎	講義

30	症候学⑩	頭痛	総合診療・塩田	講義
31	症候学⑪	咳・痰・血痰	呼吸器内科・大森	講義
32	症候学⑫	便秘・下痢	消化器内科・岡本	講義
33	症候学⑬	胸痛	循環器内科・油布	講義

<b>【アクティブラーニングの内容】</b> 症例ベースの臨床推論をグループで事前学習する。それをスライドで提出し、講義内で随時発表を行う。	<b>【その他の工夫】</b>
---	-----------------

**【時間外学修の内容と時間の目安】**

準備学修	事例がある症候についてはMoodle上に掲載された事例（医療面接）から事前に臨床推論を行い、事例がない症候についてもその症候についての事前学習を行っておくこと（2h）。
事後学修	各症候の原因と病態生理を理解し、診断や治療の要点について自身でまとめ、専門的な治療が必要な状態を述べるようになる（2h）。

**【教科書】**

内科診断学第3版 奈良信雄 福井次矢（医学書院）2016年

**【参考書】**

総合診療力を磨く40の症候・症例カンファレンス 加計正文ほか（南江堂）2014年

**【成績評価方法及び評価の割合】**

出席（グループ学習含む）とレポート合わせて40%、筆記試験60%で評価する。また、2/3以上の出席が確認できない場合は、筆記試験の受験資格を認めず不合格となる。グループ学習ではピア評価を行うことがあり、そこでの評価が低い場合は個別に面談を行う。

**【注意事項】**

授業の方法及びレポートの提出期限等の詳細については初日のオリエンテーションで周知する。  
 学務課からDeepメールで連絡があるので、必ず確認すること。  
 Moodleも日々更新されるので、毎日チェックすること。  
 オンライン講義になった場合には、Zoomのブレイクアウトセッションを用いたグループディスカッションを行うので、カメラ・マイク機能が必要となる。持っていない場合は学務課から貸し出すので事前に申し出ること。  
 講義内容に関する質問は担当教官へ直接メールして下さい。  
 症候学コース全般に関することや、試験に関することは医学教育センターまたは学務課へ問い合わせして下さい。

**【備考】**

リンク	URL	
教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	医師	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	×	
教員以外の指導に関わる実務経験者		
実務経験をいかした教育内容	33症候について、それぞれの担当診療科の医師が、実務経験をもとに講義を行う。	
授業形態	対面（学内の状況によってオンライン講義となる可能性があります）	